

## 越後 池ノ塔尾根（郡界尾根中退）

棚橋

【日時】 2007年12月29日(土)～2008年1月1日(火)

【メンバー】 棚橋(L)、佐貫、栗原

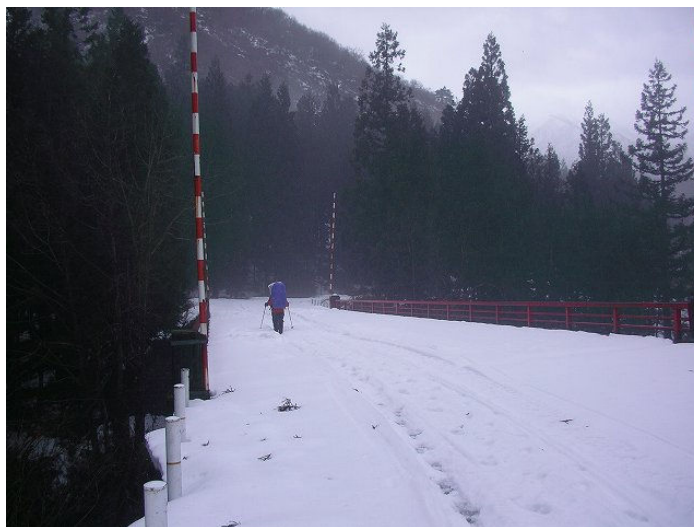
郡界尾根から越後駒へは2シーズン前から2回目指して、何れも池ノ塔までしか辿り着けなかった。今度こそは何とか完遂したいと思い、先ず予備日を十分に設けた。そしてラットレ、デポ品の荷揚げ、下山ルートに赤布付けと12月だけでも3回、越後駒周辺に足を運んだ。

しかし天気予報は初日が雨の上、その後はこの冬一番の寒気が入り、暫く留まるという最悪な状況を告げていた。出発を延ばしたところで状況は良くなりそうもないので、予定通り出発することとする。

12月29日 雨

朝一の新幹線にて浦佐に向かう。東京では何とか降られずに済んだが、浦佐駅に着くと予報通りの雨模様。しかも降り方は強い。タクシーを予約していたので、とりあえず大湯まで移動する。タクシーの窓から見える景色は、1週間前より更に雪が減っており、黒々としている。下部の藪漕ぎは必至だ。雪が少なかったのが幸いして、ゲート先のスノーシートまで運んで貰えたのが、せめてもの救いだった。すぐに準備は整ったものの、この土砂降りではとても出発する気はなれない。天気予報を確認すると、午後になると雨もあがりはしないが弱くはなりそうなので、ここで暫く雨宿りをする。じっとしていてもあまり寒くはないので、雪ではなく雨なのも尤もな話だ。

2時間も経過すると雨も小降りになったので出発する。雪が少ないので轍を辿り、1時間弱で駒の湯に到着する。少し休んだ後、前回と同じく、ここから尾根に取り付く。尾根に乗ると藪はそれほど濃くはなく、鉦目も確認できる。更に、腕位の枝が切り落とされているところもある。おかげでラッセルより数段早く進むことがで



行きはヨイヨイ

きた。手別山の手前で漸く水が作れるだけの積雪となったので、テントが張れそうな広がりを見つけ、一日目の行動を終える。結局、終日雨はあがらなかったが、手袋も必要ないほど暖かかった。

12月30日 雪

朝、目が覚めると雨がテントを叩いている。テントがゴアの新品で本当に良かった。準備を整えてもまだ降っており、さすがに今日は雪に変わるまで待つこととする。8時近くになって漸く雪になり、テントから飛び出す。

暫くは坪足で進むが、藪に薄っすらと雪が被って歩き難いのでアイゼンを付ける。標高が1000m近くとなった辺りで、更にワカンに替える。そしてCo1030mの幕営適地にて、今後の天候およびこの先には

幕営地を見つけることが困難であることを鑑み、行動を協議する。いろいろ意見を出したが、結局ここに泊まることとした。



雨と藪の大歓迎を受ける

12月31日 雪

昨日からの降雪量は大凡80cm位か、すっかり雪景色となった。地形からか、風にテントが揺らされることはなかったが、上部の風の音は大きかった。郡界尾根上にはこれといった幕営適地は見出せないが、何とかかなりそうと思える候補地点を目指して出発する。

先ず昨日とは一転して、猛ラッセルが強られる。暫く進み、いつもは巻く急登はキノコ&急な草付きとなっており、際どくアイゼンで越える。しかしここを下ることは厳しいだろう。

アオリからの尾根と合わさると一変して暴風雪となる。以前に中退した時と同様、稜線の気象条件は厳しくても池ノ塔尾根



池ノ塔尾根の風は比較的穏やかだ

は、西風がブロックされるようだ。池ノ塔を目指して稜線を進むが、結局その手前で中

退を決定して退き帰す。そして手別山の少し手前まで戻り、幕営した

1月1日 雪

手別山までは雪が風で飛ばされていたようで歩き易かったが、それ以降は積雪が深く、トップは空身ラッセルが強いられる。セカンドでも改めて腰までラッセルとなるので、苦勞させられる。駒の湯からの林道も先頭は空身ラッセルにて、行きの5倍近くの時間を要し、漸く大湯に辿り着いた。

何とか郡界尾根から越後駒に登りたかったが、またもや到達できなかった。予想される悪天候を避け、他の山域に計画変更を行えば成功率も多少はアップするのもかも知れないが、拘りの山域・計画は簡単に変更できない。それならば、もっと力を蓄えなければならぬのだろう。

- 【行程】 12/29 大湯(8:30/10:30)～駒の湯(11:25/38) ～Co718 C1(15:00)  
12/30 C1(8:00)～手別山(8:30)～Co996(9:35) ～Co1030 C2(11:05)  
12/31 C2(7:30)～池ノ塔手前引き返し(11:30)～C2地点(13:30) ～  
Co750 C3(15:30)  
1/1 C3(8:20)～駒の湯(14:20)～大湯(18:50)

【地図】 奥只見湖、八海山

